



NEWS



事務部長就任のご挨拶

事務部長 うらた あきひろ
浦田 明宏

この度、島根大学医学部事務部長に就任させていただきました。浦田明宏と申します。

出身は鳥取市ですが、鳥取大学に入職してからは米子の医学部・病院で26年間勤務、その後、高知大学・山口大学・鳥取大学の管理職を務めてまいりました。いずれも医学部・病院であり、「事務職としては異例な経歴だね」とよく言われておりました。

通常、事務職は事務局や高専などの経験をしているものらしいですが、私の場合は、医学部・病院のみの経験であり、逆に言えば医学部・病院しか知らないということにもなり、この経歴が異例と言われる理由となります。

話を戻しまして、私は33年間で医事、医療情報、会計、経営、総務と経験してまいりました。今後、医師の働き方改革、医師偏在、地域医療政策と様々なことがあり、さらには新型コロナウイルスの影響による病院経営の圧迫など、問題は山積しております。

私は今までの経験を生かし、また他大学の情報を収集するなど、事務部一丸となり、皆様のお力となれるよう努力して参りますので、今後とも事務部にご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

2022年5月15日～6月14日 対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
3/18(金)～ 6/16(木)	令和3年度 第4回肝臓病教室・家族支援講座	肝疾患相談・支援センター ホームページ上での動画配信	一般 医療	島根大学医学部附属病院 肝疾患相談・支援センター

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



CONTENTS

- ・感染対策専任者就任のご挨拶
- ・事務部長就任のご挨拶
- ・解剖学講座発生物学 教授就任のご挨拶
- ・研修会・講演会・セミナー開催情報





感染対策専任者就任のご挨拶

感染制御部 感染対策専任者 准教授 はだの よしろう
羽田野 義郎

2022年3月1日付けで、当院、感染制御部准教授として着任し、今年度、感染対策責任者に就任いたしましたので、ご挨拶申し上げます。

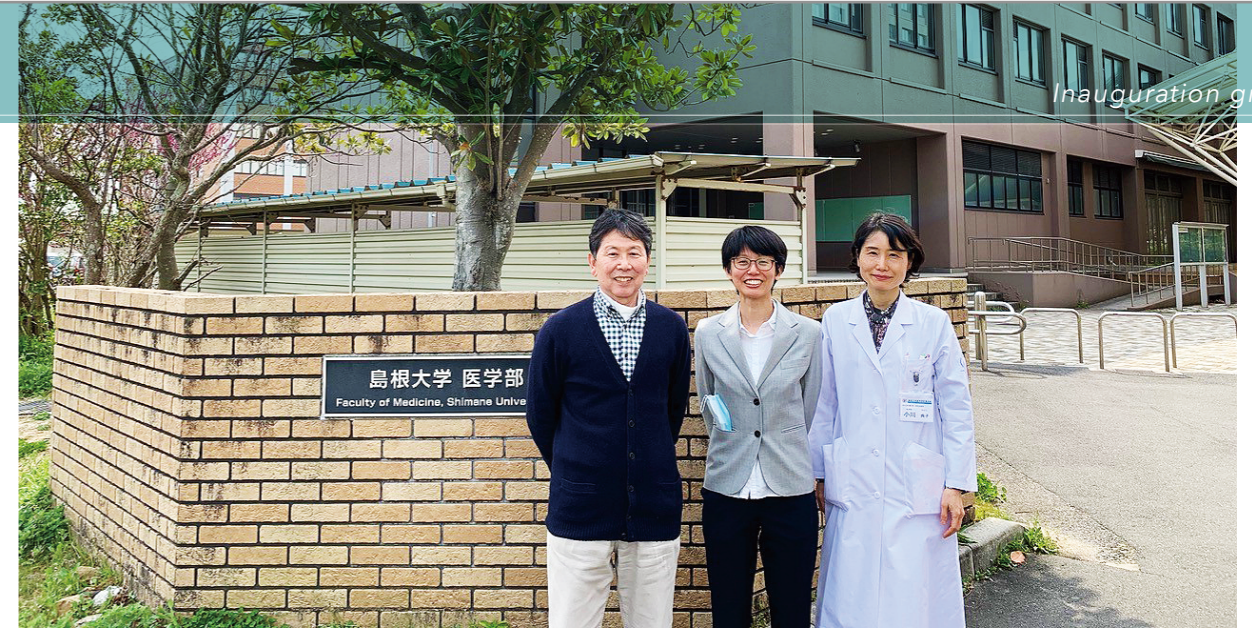
私は2005年に宮崎大学を卒業後、内科後期研修、感染症フェローシップを経て、主に臨床でのコンサルテーションや感染対策などの感染症の問題に対峙してまいりました。

感染制御部は、院内や地域での感染症対策、予防を担当している部門です。COVID-19が世界的な問題となり2年が経過しましたが、まだまだ予断を許さない状況が続いています。感染症関連の専門職は非常に多忙な時期が続いていますが、感染対策の基本的な知識、実践の浸透はかなり進んだとも感じています。

薬剤耐性もまた、近年大きな問題となっています。耐性菌の問題は、感染対策だけではなく抗菌薬適正使用が鍵を握ります。抗菌薬適正使用を推進することで、耐性菌発生率の減少、患者さんの死亡率低下につながります。現在使用できる抗菌薬を可能な限り未来に残すことは、次世代を担う子供達への財産となると考えます。

卒前、卒後の教育も含めて取り組むべき課題は多いですが、患者さんや医療従事者の安全と病院診療機能の維持のために、皆さまのご意見を頂戴しながら、当院および県内の感染症対策・予防に尽力いたします。皆様のご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先 **感染制御部 TEL:0853-20-2483**



写真中央 藤田 幸 教授

解剖学講座発生生物学 教授就任のご挨拶

島根大学医学部 解剖学講座 発生生物学 教授 ふじた ゆき
藤田 幸

2022年4月1日付けで、前教授大谷浩先生の後を受け、医学部解剖学講座発生生物学の教授を拝命いたしました。この場をおかりして、皆様にご挨拶申し上げます。

私は2006年に星薬科大学を卒業後、千葉大学大学院医学薬学府に入学し、医学研究の道に進むことになりました。

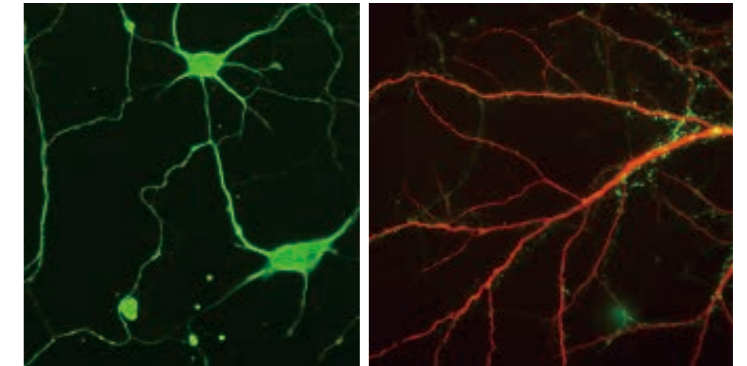


図: 培養神経細胞 (左)と神経回路の接続部 (右、緑色)の写真

その後は大阪大学で、なぜ神経は再生しにくいのか、という研究課題に取り組みました。2021年4月から、アメリカフィラデルフィアにあるペンシルベニア大学に留学しました。

当講座では、1年生の組織学、2年生の発生学、内臓学、骨実習、解剖学実習を担当しています。また、医学部生のリサーチマインドを養うことは、国際的視野から医療ニーズを理解できる人材の育成につながるため、学部研究教育にも力を入れていきたいと考えています。研究を通して、将来医療の場で役立つ、自ら考える力を養います。

私たちは、脳の発生とその制御が破綻した際に生じる病態解明の研究に取り組んでいます。動く、話す、感じる、などのさまざまな脳の機能の基盤となるのは、脳の中にある神経回路です。発生・発達期にはこの回路が盛んに形成され、人間の活動の基盤が構築されると言えます。私たちは、この神経回路がどのように形成されていくのか、また、疾患や加齢により神経回路が壊れた場合、どのように修復されるのか、明らかにしていきたいと考えています。島根大学から面白い研究成果を世界に向けて発信できるよう努力してまいりますので、ご指導ご支援賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



ご報告



多職種連携による炎症性腸疾患診療の実践

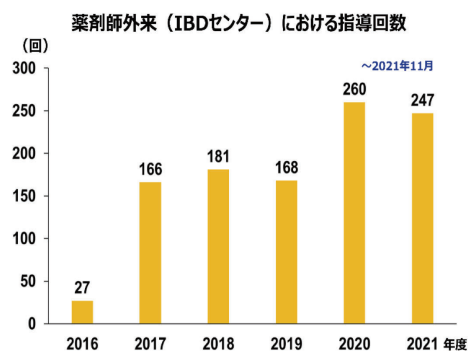
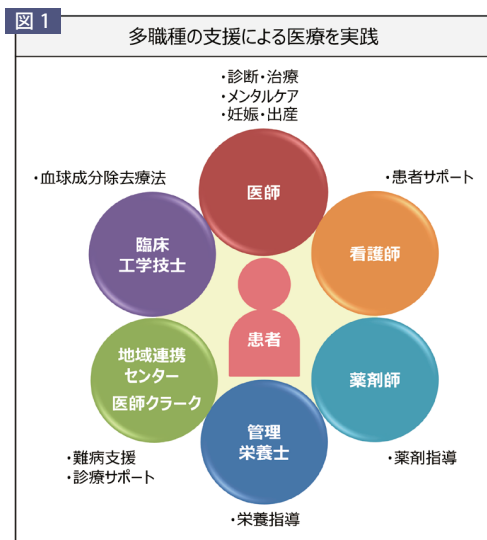
消化器内科・IBDセンター 教授 いしはら しゅんじ
石原 俊治

炎症性腸疾患 (IBD) であるクローン病や潰瘍性大腸炎は厚生労働省によって難病指定を受けている病気です。2019年の全国調査では約30万人がIBDに罹患していることが報告され、その数は1991年の10倍に達しています。急速な患者数の増加のみならず、IBDは若年発症し合併疾患が多いことから、臨床現場ではより多様な対応が必要になってきます。

当院では2015年12月にIBDセンターを立ち上げ、多職種連携によるチーム医療を実践してきました。現在、当院で診療するIBD患者数は300人を超え、医師(外科、小児科、精神科神経科、膠原病内科、産科・婦人科)、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床工学技士、医師クラークなど多くのスタッフ、また地域医療連携センターから支援を受けて診療が成り立っています(図1)。例えば治療面では、近年、難治例に対して様々な分子標的薬の臨床使用が可能となりましたが、治療の複雑化という点から患者さんへの十分な説明が必要です。これらの薬剤に関する説明・服薬指導は入院と外来を連携しながら進めており、その指導回数は年間250回程度に達し(図2)、IBD診療の大きな支えになっています。

IBD患者は増加の一途を辿っていることから、今後も多職種の皆様のご支援をいただきながら、患者さんのお役に立つような先進的な医療体制の充実に努める所存です。

問合せ先 IBDセンター(内科外来) TEL: 0853-20-2381



お知らせ

今年もやります!

栄養セミナーとNST研修会

栄養サポートセンター センター長 やの しょうぞう
矢野 彰三

栄養状態は生命予後に強力なインパクトを与えます。現在、栄養サポートチーム(NST)担当医師は、乳腺外科・板倉正幸先生(副センター長)と高度外傷センター・岡和幸先生、肝臓内科・矢崎友隆先生、そして私の4人です。もちろん管理栄養士、看護師、薬剤師、リハビリ士、検査技師、歯科医師の協力あつてのNSTです。やせの進行、食欲不振、栄養状態が悪化している、術前に栄養改善を目指したいといった患者さんの「食べたい」をサポートするため、定期的にNSTカンファレンスを開催しています(図1)。

例年NST研修会と栄養セミナーを実施してきましたが、コロナ禍にてハイブリッド形式で現地参集は最少人数で行っています。昨年度は、矢崎先生、岡先生に専門領域についてご講演いただき、30人以上の方にご参加いただきました(図2)。短時間でしたが密度の濃い研修会となりました。また、栄養セミナーは、継続して参加いただいた看護師2名と管理栄養士1名の方に修了証をお渡ししました。さらに、島根県立こころの医療センター、島根県立中央病院、松江市立病院から計6名(管理栄養士3名、薬剤師2名、看護師1名)の参加がありました。今年度も実施する予定ですので、褥瘡・NSTリンクナースの方やNST専門療法士にご興味ある方には是非ご参加いただければと思います(図3裏面)。

問合せ先 栄養治療室 TEL: 0853-20-2074 E-mail: nst@med.shimane-u.ac.jp



オンラインでのNSTカンファレンスの様子

令和3年度 島根大学医学部附属病院
出雲 NST on-Line 研修会
~今こそ! チーム力を高めよう!~
2021年10月17日(日) 9:30~11:30

プログラム

- ◆ 講演1 「肝疾患と栄養~最近のtopicを添えて~」 矢崎 友隆 医師
- ◆ 講演2 「救急・集中治療領域の栄養療法」 岡 和幸 医師
- ◆ 講演3 「食べられる口を目指して-今日から使えるプロのコツ-」 井上 美香 看護師
- ◆ 講演4 「簡易懸濁法の実施と有用性」 中村 健志 薬剤師
- ◆ 講演5 「当院の経腸栄養剤・症例報告」 足立 友紀 栄養士

令和3年度NST研修会パンフレット(一部抜粋)

裏面あり



図 3

2022年度 栄養セミナー(学外向)

栄養管理に必要な栄養評価、経腸栄養、点滴などについて学びます。みなさまのご参加をお待ちしています。

場所: 未来棟4Fギャラクシー

講師: 矢野 彰三先生(栄養サポートセンター長)



日程	時間	内容
6月22日	16:30~17:30	栄養障害例の抽出・早期対応
6月29日	16:30~17:30	栄養療法に関する問題点・リスクの抽出
7月6日	16:30~17:30	栄養療法に関する合併症の予防・発症時の対応
7月6日	17:30~18:30	経腸栄養・経口栄養のプランニングとモニタリング
8月3日	16:30~17:30	栄養薬剤・栄養剤・食品の選択・適正使用法の指導
8月3日	17:30~18:30	経静脈栄養のプランニングとモニタリング
8月31日	16:30~17:30	経静脈栄養剤の側管投与方法・薬剤配合変化の指摘
8月31日	17:30~18:30	栄養管理についての患者・家族への説明・指導
9月14日	16:30~17:30	在宅栄養・院外施設での栄養管理法の指導
NST研修会(別日程、参加無料)		経静脈輸液適正調剤法の習得
NST研修会(別日程、参加無料)		経腸栄養剤の衛生管理・適正調剤法の指導、簡易懸濁法の実施と有用性の理解



●このセミナーに出席し、さらに病棟実習および症例報告の提出(1例)を行った方には、日本臨床栄養代謝学会「栄養サポートチーム専門療法士」認定規程に基づく臨床実地修練修了証明証を発行いたします。費用は、1回につき2,200円です。本セミナー参加希望の方は、事前に申込を受付けますので、お早めにご連絡ください。

問合せ先: 総務課企画調査係(久保田) TEL: 0853-20-2019 Fax: 0853-20-2025
mga-kikaku@office.shimane-u.ac.jp 主催: 栄養サポートセンター

システム更新準備状況について

医療情報部 部長 教授 つもと しゅうさく
津本 周作

医療情報部では、5年に1度のシステム更新を進めており、2022年5月20日からシステムが更新されます。今回の更新では、超音波検査の画像を電子的に保存・検索ができるようになり、ICU、NICU、MFICU、高度外傷センターの重症系のモニタリングシステムが一体化、検索機能を充実させることになっています。

さらには、2022年10月から、本格的にスマホによるサービスを展開しようと準備を進めています。これは、全国的にもはじめての試みとなります。コロナ禍での三密を避けることを目的に導入しようというのですが、それ以上のサービス向上をねらっています。スマホでアプリを登録すれば、当院の近くまで来た場合、スマホから再来受付機を使わず、再来受付ができるようになります(図)。

また、外来の主な場所の案内、外来診療の待ち時間(推定値)の表示、外来のための簡単な問診入力を可能とし、検査結果や処方箋の内容をスマホで表示・閲覧することができるようになります。診察後の支払いも、スマホでのキャッシュレス決済を使い、計算を待たずに病院から帰宅することも可能となります。まだまだ、3G端末をお使いの方も多いかと思いますが、2026年にはほぼすべての3Gのサービスが終了し、スマホに移行することになりますので、そうならば、本サービスの意義はさらに高まると思われます。10月開始に向けて、準備を進めてまいります。

図 診療ナビゲーション





ご報告

不妊治療が保険適用になりました

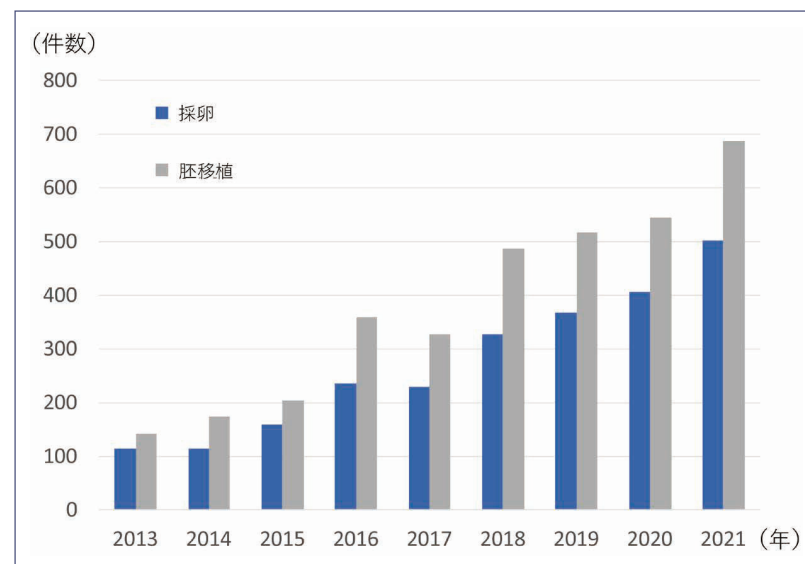
総合周産期母子医療センター/産科・婦人科 准教授 かなさき はるひこ 金崎 春彦

日本は少子高齢化が進んでいますが、同時に晩婚化が進行しています。女性は年齢が上がると妊娠率が低下する為、妊娠を希望するのに妊娠しない「不妊症」の患者さんは増えています。不妊治療には様々な治療がありますが、子宮内に精子を注入する人工授精や生殖補助医療と呼ばれる体外受精や顕微授精にはこれまで一部を除いて公的保険の適用がなく、公的助成制度は存在したものの患者さんには大きな経済的負担がかかっていました。

これまで、自由診療で全額自己負担だった治療が、本年4月から保険適用となりました。体外受精や顕微授精に関しては治療開始時点で女性の年齢が43歳未満であることを条件とし、採卵や胚移植と言った一連の治療については40歳未満の場合は子供一人につき最大6回まで、40歳以上43歳未満の場合は最大3回まで保険が適用されます。勃起不全や無精子症などの男性不妊症にも保険適用が開始されています。島根大学病院では現在採卵・胚移植を含め年間1,000周期以上の生殖補助医療を行っており、無精子症の男性患者さんに対しては泌尿器科の先生と協力して精巣内精子回収による顕微授精も実施しています。

受精卵を子宮内に移植する前に、遺伝子や染色体数を調べる着床前診断（保険適用なし）や若年がん患者さんの妊孕性温存療法を行うのも私たちの仕事です。当院は島根県より「しまね妊娠・出産相談センター」事業の委託も受けています。引き続き患者さんの期待に応え得る診療を行って参ります。

生殖補助医療治療周期の推移(2013年～)



卵子の確認を行う胚培養士

問合せ先 産科・婦人科外来 TEL: 0853-20-2389



お知らせ

泌尿器科の不妊症治療を再開しました！



泌尿器科 助教 こばやし ゆうすけ 小林 祐介
教授 わた こういちろう 和田 耕一郎

活動を休止していた男性不妊症治療を泌尿器科で再開しました！

コロナ禍の影響はまだまだ続きそうですが、「不妊医療に待たなし」の状況です。厚生労働省によると、2020年の島根県の合計特殊出生率は1.69で全国第2位、全国平均(1.34)を大きく上回っております。しかし日本の同出生率は世界で第191位であり、残念ながら最も低い国のひとつとなっています。そのような状況において、2022年4月からは各種不妊治療が保険適用となり、これまで自費診療で実施していた多くの治療が医療保険で実施できるようになりました。

泌尿器科で主に実施するのは、精液検査異常や勃起不全に対する薬物療法や外科的治療です。具体的には漢方薬やED治療薬などによって、精液所見の改善や性行為の完遂率向上を目指します。また、受精可能な精子数が少ない方に対しては、精巣内精子採取術を実施しています。精索静脈瘤による痛みや精液所見の悪化が疑われる方に対しては、従来の腹腔鏡下高位結紮術に加え、県内で唯一、顕微鏡的な低位精巣静脈結紮術を開始します。この泌尿器科での不妊治療は、小林祐介(写真)をチーフとする不妊症外来を窓口とし、科を挙げて対応して参ります。そして積極的に不妊症治療を実践されている婦人科との強固な協力体制を構築し、病院全体の取り組みとして確立できるよう努力致します。

性行為がうまくいかない男性や、不妊症で悩んでおられるカップルがおられましたら、泌尿器科にお気軽にお問い合わせください。

問合せ先 泌尿器科外来 TEL: 0853-20-2387





ご報告

島大病院ニュース 2022年5月

緩和ケアの体制強化について

緩和ケアチーム

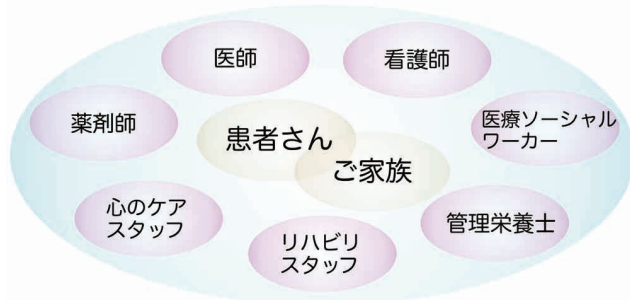
緩和ケア講座 教授
なかにとしひこ
中谷 俊彦

医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・リハビリスタッフ・医療ソーシャルワーカー・心のケアスタッフ等から構成されるチームで、主治医や病棟スタッフとは独立して構成されており、一般病棟や外来で病気を治すことが難しい状態にある患者さんとご家族への緩和ケアを行います。

診療内容としては、薬物療法（薬剤師による説明・相談を含む）、精神心理療法、放射線療法、看護ケア、リハビリテーション、食事栄養ケア、医療社会制度の相談支援、転院や在宅ケア調整・支援などを行っています。

緩和ケアチームによる支援

病気そのものを治すことが難しい状態にある患者さんとご家族へのケアをチームで行います



緩和ケアセンター

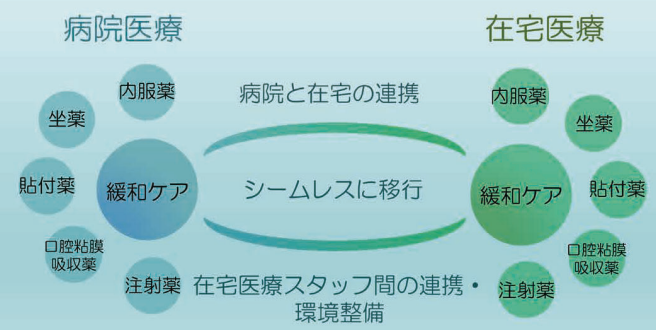
緩和ケアセンター センター長 講師
はしもと たつや
橋本 龍也

緩和ケアセンターは、どこにいても切れ目なく質の高い緩和ケアを提供できるよう緩和ケアチーム・外来、緩和ケア病棟を有機的に統合しています。

緩和ケア病棟は積極的ながん治療を終えた（希望しない）患者さんに対して、こころとからだの苦痛を緩和し、望まれた場所で自分らしく過ごしてもらえるようサポートしており、退院や緊急入院も可能です。

地域との連携を充実させ、在宅緩和ケアを支援しています。お気軽に下記までお問い合わせください。

在宅でも病院と同等の薬物療法を運用するモデル



問合せ先

がん患者・家族サポートセンター TEL: 0853-20-2518
緩和ケアセンター TEL: 0853-20-2615



ご報告

島大病院ニュース 2022年5月

不妊治療の在宅自己注射指導を開始しました

B病棟3階 産科・婦人科外来 看護師長 かずもり かずえ
数森 和栄

人工授精等の「一般不妊治療」、体外受精・顕微授精等の「生殖補助医療」が、本年4月から新たに保険適用されることとなりました。「生殖補助医療」については、採卵から胚移植に至るまでの一連の基本的な診療は全て保険適用されます。経済的負担が軽減されることで治療のハードルが低くなると思われます。

不妊治療の保険適用により、4月から外来で在宅自己注射指導を開始しました。不妊治療では排卵誘発や卵巣刺激のために、注射による治療が必要な場合があります。今までは病院に受診して注射を受けていただく必要があり、頻回な来院や遠方からの通院を負担に感じられる方もありました。今後はご自身で実施する自己注射を選んでいただくことができるようにしました。自己注射にすることで通院回数を減らし、通院に伴う仕事や家事への影響を少なくして治療を行うことができるようになります。

また、患者さんが安心して自己注射ができるようにパンフレットを新たに作成し、自己注射の練習用キットを準備しました。パンフレットと練習用の注射器を用いて説明を行い、看護師と一緒に外来で自己注射の練習をしています。



問合せ先

産科・婦人科外来 TEL: 0853-20-2389



2022年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2022年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2022年5月

お知らせ

HPVワクチン・タスクフォースを設置しました！

小児科 診療科長 教授 たけたに たけし
竹谷 健

2022年4月から、子宮頸がんワクチンの積極的勧奨が再開されました。日本で年間約1.1万人の女性が子宮頸がんを発症して、そのうち約3,000人が不幸にもお亡くなりになります。命が助かったとしても、手術などで子宮を失って妊娠出産できなくなる方が約1,000人います。ほとんどの子宮頸がんはHPV（ヒトパピローマウイルス）の感染が原因です。したがって、HPVワクチンを接種することで、HPVへの感染を防ぎ、子宮頸がんを予防することができます（子宮頸がんの予防には、併せて子宮がん検診を受診することが重要です）。世界保健機関（WHO）が接種を推奨しており、多くの先進国で公的接種として位置付けられています。

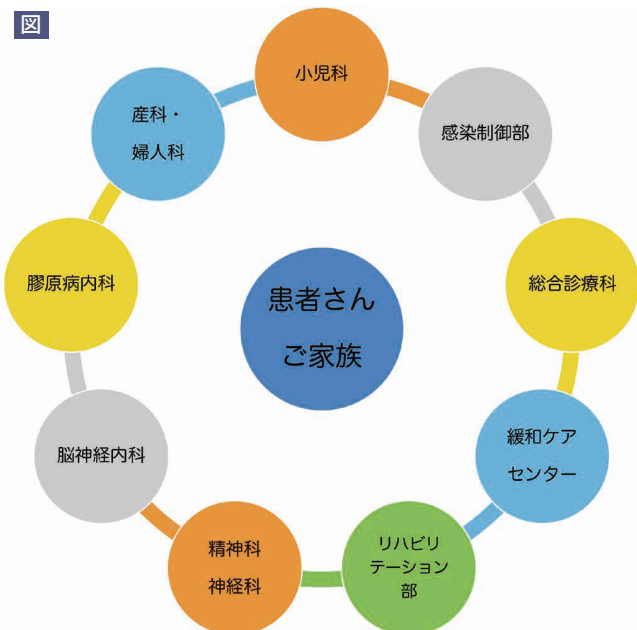
日本では2013年4月からHPVワクチンの定期接種が開始されましたが、接種後の多様な症状が報告されて、同年6月から積極的勧奨が差し控えられました。その後の調査でHPVワクチン後の多様な症状がHPVワクチンとの関連がないことが明らかとなったこと、HPVワクチンで亡くなったり子宮を失った方はいない一方、今でも子宮頸がんが毎年約3,000人の女性が亡くなっていることから、今回の積極的勧奨が再開となりました。

しかし、予防接種により多様な症状が出現する方がいることは明らかですので、あらゆる年代で接種されるすべてのワクチンによって生じる副反応を「接種ストレス関連反応（ISRR）」と2020年1月にWHOが提唱して、接種医療機関は副反応の対応と予防に努めるように推奨しています。

日本では接種医療機関で対応が困難な副反応に対応するための協力医療機関を設置して、HPVワクチン接種後に生じた症状に苦しんでいる方に寄り添った支援を行うことになりました。島根県では当院が協力医療機関として任命されましたので、多様な症状の副反応に対応することができるように、9つの診療部門から構成されるHPVワクチン・タスクフォース（図）を設置しました。

もし、HPV接種した方が副反応で困っておられましたら、いつでもご連絡頂ければ、迅速かつ適切にHPVワクチン・タスクフォースで対応させていただきます。

子宮頸がんをHPVワクチンと検診で撲滅して、子宮頸がんが亡くなったり子宮を失う女性が一人でもいなくなるように、ご支援ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



問合せ先 地域連携センター TEL: 0853-20-2068



2022年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2022年5月

ご報告



世界緑内障週間「ライトアップinグリーン運動」 出雲大社、日御碕灯台などをライトアップしました

眼科学講座 くろめ なおこ
黒目 奈穂子

2022年3月6日（日）～12日（土）の世界緑内障週間に、出雲大社、日御碕灯台、山陰中央テレビ（TSK）本社鉄塔、および島根大学医学部附属病院玄関ホール、山陰両県の多数の医療機関を緑内障のシンボルカラーであるグリーンにライトアップしました。

この運動は、日本の視覚障害の原因疾患の第1位である緑内障について、認知・理解と緑内障の発見のための受診の重要性を一般の方に広く知っていただくための啓発活動です。

出雲大社、日御碕灯台、TSK本社鉄塔はとてもきれいなグリーンに照らされ、昼間の光景とは違って、幻想的で素敵でした。

そして今年も、山陰両県20箇所以上の病院、開業医の先生方の御協力をいただき、当講座から投光器を貸し出し、各医療機関を素敵にライトアップしていただきました。

この運動が緑内障の早期発見そして失明予防につながることを願って今後も続けていきたいと思っています。

問合せ先 眼科学講座事務局 TEL: 0853-20-2284



2022年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





絵本カーニバル ～絵本の世界を旅しよう～

小児病棟保育士

つばき あつみ
椿 敦美

小児科 チャイルドライフスペシャリスト

くろさき
黒崎 あかね

3月17日からの約2週間、小児病棟で、絵本カーニバルを開催しました。

入院している子どもたちは、痛みや苦痛を伴う検査や治療を頑張っています。また、感染症にかかりやすいため、人が多く集まるところや集団で行うイベントに参加できません。さらに、コロナ禍で子どもたちは大人よりも制限を強いられる生活を行っています。したがって、成長発達していく子どもたちにとって、特に入院中の子どもたちは病気の苦しみだけでなく日常生活でも不自由を感じています。

そこで、入院中の子どもたちに病気だけでなくコロナ禍の閉塞的な生活から少しでも解放してもらえるように、伊藤忠記念財団「病院・施設子ども読書活動助成」を受けて、特定非営利活動法人「絵本カーニバル」のご協力を得て3月17日(木)から29日(火)まで、小児病棟の多目的ルームにたくさんの絵本を借りることができました。

小児病棟実習中の医学部生にも手伝ってもらい、絵本をテーマ別に分類し、赤ちゃんがであう絵本、のりもの、おいしい絵本、いろんなきもち、冒険しよう旅にでよう、海外でも人気の日本の絵本(日本語版と翻訳版)、ポルトガル語の本など幼児から高学年まで楽しめる絵本を並べました。

病院ではないような楽しい空間の中では、検査や処置により気持ちが落ち込んだ時でも親子で絵本を読むことで気持ちをリセットすることができます。6歳の男の子は、大好きな「のりもの」の本を読んでもらい、繰り返し出てくるセリフを覚えていて「ピンポン」と主人公になって絵本の世界を楽しんでいました。また、4歳の男の子は、手術後にベッド上安静の制限がありましたが、「からすのパンやさん」に出会い空想の世界で遊び、術後の痛みを乗り切ることができました。

コロナ禍の中でもたくさんの方にご協力いただき、楽しい時間を過ごすことができました。

この場をお借りして、心よりお礼申し上げます。これからも子どもたちの健やかな成長を願って、子どもたちとご家族のための取り組みを続けて参ります。

